

登壇者一覧

(敬称略)

役割	所属	役職	氏名
コーディネーター	法政大学	教授	高柳 俊男
アドバイザー	浜松・浜名湖ツーリズムビューロー	事業本部長	前田 忍
報告者	JR 東海飯田支店	支店長	大坂 勝典
報告者	南信州広域連合	事務局次長	松江 良文
発言者	設楽町	町長	横山 光明
発言者	浜松市	市長	鈴木 康友
発言者	松川町	町長	深津 徹
発言者	阿智村	村長	熊谷 秀樹
発言者	天龍村	村長	永嶺 誠一
発言者	豊橋商工会議所	会頭	神野 吾郎
発言者	新城市商工会	会長	権田 知宏
発言者	袋井商工会議所	会頭	水谷 欣志
発言者	天竜商工会	会長	大村 邦男
発言者	愛知大学総合郷土研究所	研究員	平川 雄一
発言者	けもかわ project(元泰阜村地域おこし協力隊)	代表	井野 春香

■コーディネーター

法政大学 教授 高柳俊男 氏

法政大学国際文化学部の高柳と申します。よろしくお願いたします。私の専門は朝鮮の近現代史で、三遠南信地域を研究していたわけではありません。法政大学では6年前から、留学生の研修を南信州で行っています。決して東京がイコール日本ではない、ということで、日本の姿を多面的に知ってもらうためです。提案者は別の先生



だったのですが、定年間近だったため私が企画をし、引率や事前学習をするうちに、この地域について多少詳しくなりました。それでこういう役を仰せつかっております。

この間、浜松に行った際、「はやたろう」というラーメン屋を見かけました。霊犬の伝説は南信州では「はやたろう」だけ遠州では「しっぺいたろう」だよなあ、と思って調べてみたら、南信州出身の方が遠州でラーメン屋をやっているということでした。つまりご本人が三遠南信地域を体現しているということです。実際にネットには「信州生まれ遠州育ち」と書いてあり、何かちょっと楽しくなりました。

さて、今回のこの分科会には、全体会のパネルディスカッションでもご登壇いただいています、浜松・浜名湖ツーリズムビューローの前田忍事業本部長がアドバイザーとしてご参加いただいています。

では、ご挨拶をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

■アドバイザー

浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 事業本部長 前田 忍 氏

浜松・浜名湖ツーリズムビューローの前田でございます。本日は、僭越ながらアドバイザーということで呼んでいただきましたので、よろしく願いいたします。

私は、岐阜県恵那市の出身で、飯田に近い風光明媚なところ、一言で言うと田舎なんです。先日放送されたNHKの朝の連続ドラマの「半分、青い。」の影響で、昔は閑古鳥が鳴いていた五平餅店が列をなしているというような状況です。

私は平成25年から2年間、北海道のホテルの事業再生をしていました。観光資源が全くない地域にどう人を呼び込むのかということで、インバウンドに特化した事業を強化してまいりました。また、その後は大井川鉄道の事業再生にも関わり、SLという昔

からのコンテンツがある中で、昔なかった仕組みづくりによって、コアな鉄道ファンをどう集めるのかということにも携わってきました。個人的には、そういった体験を具現化してきている民間の発想から、差し支えなければこういった場でご意見をさせていただきたいなと思っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

■コーディネーター

ありがとうございます。それでは、この分科会のテーマは、新ビジョン案の基本方針3「風土」の「流域文化創造圏の形成に向けて」、でございます。新ビジョン案について、まず、事務局からご説明をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

■事務局

新ビジョン案では、三遠南信流域都市圏の創生をテーマに5つの基本方針を設定しており、本日はこの基本方針ごとに分科会を設けております。また、基本方針を推進するために、特に重点的に取り組む7つの重点プロジェクトを定め、それに関連する事業の工程表を策定しております。

本日のこの風土分科会では、重点プロジェクト4と5について意見交換を行います。最初に、この2つのプロジェクトに関連する取組についてご報告をいただいた後、重点プロジェクト4と5に関して順番に意見交換を行いたいと思います。よろしく申し上げます。

■コーディネーター

ありがとうございます。それではまず、飯田線活性化の取組について、JR東海飯田支店長の大坂勝典様からご報告をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

■ JR 東海飯田支店 支店長 大坂勝典 氏

JR 東海飯田支店長の大坂勝典と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。飯田線の活性化の取組については簡単に説明させていただきます。

まず、JR 東海の代表的な取組は、観光キャンペーンがございませう。観光キャンペーンは、地元の皆様と協力をし、て誘客を実施するといふものです。地元の皆様には、観光資源の開発、提案、宣伝、素材、特典、そしておもてなしを提供していただきます。JR は座席、列車の提供、自社媒体における PR を行い、それを旅行会社に商品造成、販売してもらい、成り立っているといふものです。JR の行う自社媒体での宣伝についてご紹ひしますと、名古屋駅コンコースでのイベント、名古屋駅でのデジタルサイネージ、乗りかえ通路等でのポスター掲示、パンフレットなどです。パンフレットは、自社で発行している情報誌「shupo」を活用しアピールしてございませう。伊那市の分杭峠、阿智村の日本一の星空、駒ヶ根市の千畳敷カール、飯田線秘境駅など、飯田線沿線の観光資源と鉄道をセットにした旅行商品を PR してございませう。パンフレットや旅行商品で取り上げるコンテンツは今も募集中で、今後、沿線の皆様と連携を密にして幅を広げていきたいと思ひてございませう。

次に、さわやかウォーキングイベントです。飯田線の駅をスタートとし、配布したマップ、看板を頼りに、ゴールまで立ち寄り箇所を自らの足で回っていただくものです。ポイントは、地元の皆様と直轄する駅が共同で運営する点で、しかもリピーターがいるといふことす。これまでに、4,340 コースを開催し、参加人数は500万人を超えてございませう。参加者は、歩くことを目的に参加してございませうが、地元と駅が連携し、自慢のスポットを見ていただく、感じていただく、喜んでいただく、そしてまた来ていただくといふことが大切だと感

じてございませう。沿線の皆様には、今後ともご協力をよろしくお願ひいたします。

観光資源としての飯田線といへば、秘境駅がございませう。観光資源は、一般的にそこにしかない魅力が必要である、といわれてございませう。飯田線には、ここにしかない駅が何駅もあり、それだけでも十分観光資源になると思ひます。秘境駅号は、周囲に何もない秘境駅に、特急の車両が停車し、実際に降りて秘境を味わっていただきます。秘境駅は、最近テレビでも取り上げられ人気も高く、普通列車に乗ってもらい、ちょい乗りといふツアーも多く企画してございませう。こいうツアーでは、JR の収入はあまりありませんが、秘境駅の知名度が上がって誘客につながれば、十分価値のあることだと思ひてございませう。秘境駅号は平成22年からスタートし、初年は74本を運行し7,735名の方がご乗車していただきました。それから毎年、20から56本の運行をしてございませう、今年夏に8本運行し1,189名のご利用いただひてございませう。この秋にはさらに12本、全て旅行商品として貸し切りで運行してございませう。

さて、去年は飯田線80周年に当たりまして、8月のイベントでは沿線の皆様に盛り上げていただきありがとごございませう。リニア中央新幹線の開業が順調に行けば10年後でございませうので、そのころには飯田線90周年を迎えます。それまで、飯田線の活性化をさらに進めていくよう、努力いたします。

最後に、長野県の南信州地域振興局に作成いただひた JR 飯田線各駅停車の旅といふパンフレットをご紹ひします。毎年発行され、飯田線の魅力がぎっしり詰まったものとなつてございませう。私も、いろいろな場面でこのパンフレットを活用してございませうが、本当にありがたく思ひてございませう。ちなみに、18ページに飯田駅が紹ひされてございませうが、飯田駅の駅舎は、

飯田特産のリンゴをモチーフにしており、平成4年に改築したものです。今年、外壁塗装を行いまして、当時の色がよみがえっておりますので、ぜひ一度飯田にお越しいただき、見ていただければと思います。

■コーディネーター

ありがとうございました。秘境駅については本学の研修でもよく使わせてもらっています。特に田本駅は、車でも自転車でも行けず、山道をしばらく歩かないと駅にたどり着かない、というのを留学生が見て、大変驚いております。

それでは、次は民俗芸能保存の取り組みについてということで、南信州広域連合の事務局次長、松江良文様、どうぞご報告をお願いいたします。

■南信州広域連合 事務局次長 松江良文 氏

南信州広域連合の松江と申します。よろしくをお願いいたします。それでは、民俗芸能の保存の取組についてご説明をいたします。

南信州地域は、貴重な民俗芸能が今も多く残っておりまして、民俗芸能の宝庫と呼ばれている地域でございます。特に、湯立神楽、念仏踊り、人形芝居、農村歌舞伎、獅子舞、花火などが盛んでございます。国・県指定の無形民俗文化財は15件あります。15件のうち、1つの文化財で複数か所を指すものもありますので、全体としては30を超える文化財がある地域でございます。

しかしながら、少子高齢化、あるいは田舎を離れて都会で暮らす人々が増え、この民族芸能の継承に危機が訪れております。そこで、当地域では、民俗芸能を継承するための推進組織として、芸能団体の代表者、市町村及び関係団体で南信州民俗芸能継承推進協議会を設立しております。協議会の基本的な考え方といたしまして、「醍醐味（真の価値）の普及と共感（響感）の輪の

拡大」を掲げております。民俗芸能を守っていく責任や重みを感じつつも、その一角を担っていることに誇りを持ち、舞うこと、演じること、参加することに喜びを感じ、何よりも楽しんでいただくことが民族芸能の醍醐味であり真の価値、これを内外に広く伝え、理解者をふやし、共に感じ響き合うことで共感（響感）の輪を広げていくことが必要である、という考え方でございます。

では、特徴的な取組をいくつか紹介します。

一つめは、長野県が信州ファン拡大のために設置したシェアスペース、銀座 NAGANO を会場として、民俗芸能に関する講演や記録映像鑑賞、南信州の伝統食の食事会を組み合わせた、民俗芸能体感講習会というイベントを開催しております。

次に、ユネスコの無形文化遺産であります大阪の文楽座の公演を、南信州の中学校、高校で行う、文楽公演・文楽体験会です。これは、文楽座に南信州出身の方がいらっしゃる縁で実現したものでございます。めったに見ることのできないプロの技に触れるとともに、地域の民俗芸能の経験者がプロとして活躍する姿を見てもらうことにより、将来の担い手である若者に大きな刺激となりました。

それから、阿南町の新野の雪祭りとかかわりの深い、民俗学者折口信夫先生の生誕130周年記念に合わせて、折口先生と縁の深い國學院大學で舞の奉納や映画上映会、講演会を行いました。首都圏の住民に対し、南信州の文化の豊かさを感じていただくとともに、南信州とのつながりを持ってもらうきっかけづくりとして開催したものです。

また、南信州民俗芸能フォーラムでは、特に若い民俗芸能の担い手に焦点を当てて、芸能発表や意見発表を行っていただいております。

これらの取組に加え、南信州民俗芸能パ

ートナー企業制度というものを立ち上げております。協議会事務局である南信州広域連合と、民俗芸能の継承活動の支援に関する協定を締結していただいた企業を、県がパートナー企業として登録するという制度でございます。本年9月末現在で、42の企業、団体がパートナー企業として登録していただいております。登録されたパートナー企業には、従業員への休暇への配慮、協議会活動の広報や出席の協力など、民俗芸能の継承活動に様々なご支援をいただき、企業と各地区相互の支援環境により、地域一丸となって取り組んでおります。

民俗芸能の継承が、万が一途切れた場合に備え、映像記録への保存の取組も実施しております。平成27、28年度に、新野の雪祭りや年中行事の映像を記録したものは、書籍、DVD を販売しており、保存会の活動費用としても活用しております。平成29年からは、阿智村の清内路煙火の映像保存を実施しております。これは、手づくり花火の奉納として10月に行われており、村人が花火師の資格を取り、仕掛け花火や大三国という花火を行い、その周りを、子供が、おいさ、おいさ、というかけ声で練り歩くというものでございます。

民俗芸能保存の取組の成果についてお話しします。まずは、民族芸能に関する催しが増加しており、メディアに取り上げられる機会が増加するなど、地域の関心の高まりが見られます。また、各地域の民俗芸能の保存会の新規加入者の増加や、高校で民俗芸能を取り上げるクラブが生まれるなど、児童、生徒への継承活動も広がってきております。地域おこし協力隊を中心に、地区外出身者や若者の参加も見られ、将来の担い手の確保に向けて期待が持てる状況になってきております。

しかし、民俗芸能の継承は一朝一夕に成り立つものではなく、これからも息の長い取組が必要だと考えております。本協議会

の取組方針の中に未着手の事業もございますので、これらも引き続き取り組んでまいりたいと思っております。終わりのない長い取組になりますが、一步一步着実に前へ進んでいきたいと考えております。

■コーディネーター

ありがとうございました。この地域は、長野県だけではなく、愛知県も静岡県も、それぞれ伝統芸能があるかと思いますが、中でも南信州は非常に数多くて有名です。それをどうやって若者に伝えるか、どうやって企業に支えてもらうか、という取組をされているということで、本日の議論にも参考になるかと思えます。

それでは、これから意見交換に移っていききたいと思います。この三遠南信地域の振興、活性化のために、どのような取組をしていけばよいのか、それぞれ発表者からご意見をいただきたいと思えます。

まず、重点プロジェクトの4「三遠南信探訪プロジェクト」です。この地域には、有形、無形のさまざまな地域資源があると思えます。それらをどのように活かしてどのような観光の振興をしていけばよいかについて、お考えをお聞かせ願いたいと思えます。

最初に、設楽町長の横山光明様、よろしく申し上げます。

■設楽町長 横山光明 氏

地域資源をどう活かすか、またどう位置づけていけばいいかということについてですが、まず、道の駅、サービスエリア、パーキングエリアを活用した地域の観光情報の発信についてです。設楽町では、昨年度、観光まちづくり基本計画アクションプランというものを立ち上げました。これは、町が目指す観光の姿を共有し、住民、町が行うそれぞれの観光アクションをつないでいく、まちづくり計画です。

現在、設楽町では、設楽ダムの建設が国土交通省によって進められております。これを観光に活かしていくために、民俗資料館を併設した新たな道の駅の整備などの周辺整備、誘客施設の計画を進めているところでもあります。これらの施設の整備においても、観光まちづくりの観点から、地域の人、物、そして暮らしの魅力を発信する場を目指していこうとしております。新たな道の駅がオープンした暁には、町内の既存の道の駅、また奥三河、そして三遠南信地域の道の駅と情報を共有し、各道の駅の来場者や売り上げの向上につなげたいと考えております。

2点目、地域内の食文化を用いた観光振興についてです。前田様からお話がありましたように、岐阜県を舞台としたNHKのテレビドラマの影響で、私の地域でも五平餅の人气が高まっています。設楽町の五平餅の店舗数はさほど多くはないですが、それでも地域によって味が違うということで、五平餅文化が盛んな三遠南信地域においても特徴的なものではないかと思えます。地域の風土が生み出したお米などの食材、各地域での暮らしの知恵、味つけなど、それぞれの持つストーリーもあわせてPRしていくと、三遠南信地域の食文化に対する関心も高まり、観光誘客へとつながるという期待をしています。

三つめに、自然資源、文化遺産を活用した観光客の誘致でございますが、設楽町の最大の自然資源として、東三河の都市部を潤す豊川、天竜川の源流域にもなっている原生林がございます。観光まちづくり基本計画アクションプランでは、この原生林をつないだ観光コースづくりを掲げ、今年の夏から秋にかけて、豊橋市の旅行会社と地域住民が連携し、50年前に廃線となった田口線という鉄道をテーマにしたツアーを企画、開催をいたしました。キャンセル待ちが続出するほどたくさんの方にご来場いた

だき、大変好評を得ました。三遠南信地域においても、旅行会社と地域が連携をし、自然遺産、産業遺産をつないで、観光として確立できるといいのではないかと考えております。

最後に、サイクルツーリズムの推進というのがうたわれております。三遠南信地域で統一したデザインをつくって、地元産材によるバイクスタンドを各観光施設に設けてはどうかと提案したいと思えます。そして、この地域の観光施設を結んで、サイクルリストに魅力のあるルートを連携してつくることができたらいいのではないかと考えているところです。

■コーディネーター

ありがとうございました。私も今年の3月、豊鉄観光の奥三河再発見のツアーに参加しようと思って、電話をしたら、もう満員ですので次回ご利用ください、とあっさり断られ、大変な人気だなと思えました。

確認ですが、現在、確か田口に奥三河郷土館があって、田口線の電車が静態保存されたり、土人形が多数展示されたりしておりますけれども、それとは別に、新しく民俗資料館もおつくりになるということでしょうか。

■設楽町長 横山光明 氏

はい。既存の郷土資料館は老朽化が進んでおり、以前から町としてつくりかえる計画をしておりました。今は高台にあり、なかなか人の足が遠いということで、今度は道の駅と並列して、国道筋に移していきたいと考えております。当時走っていた田口線の電車も、あわせて新しい郷土資料館へ移動させて、多くの人たちに見てもらえるようにしようと計画をしております。

■コーディネーター

わかりました。

それでは、次に、松川町長の深津徹様、お願いいたします。

■松川町長 深津 徹 氏

私どもの町は、下伊那郡の一番北に位置しており、上伊那郡との接点の伊那谷のちょうど中心で、人口1万2,800人余りの、中山間地域の小さな町でございます。「くだもの里まつかわ」ということで、リンゴ栽培が始まって103年目という、果物については長い歴史を持っており、3年前に果樹栽培100年の記念式典をしました。春先のサクランボから始まり、ブルーベリー、プルーン、桃、梨、リンゴと、これからちょうどぶじの最盛期になってまいります。松川町では、1年間を通じて唯一、11月の土日に中央自動車道の松川インターチェンジの出口が渋滞します。

町の活性化の1つには、交流人口を増やすことだという思いでやってまいりました。交流人口をふ増やして地域の宝を再発見して発信をして、来ていただいて、また来てね、また来るよ、そうしたおもてなしを町全体がすることで、一人一人ファンを増やすことが、町長としての方針でありました。その中で思ったことは、行政が動き回り、全てをやっていると、パンクしてしまうのではないかということでした。そこで、2、3年前から、DMOを目指したいと思い、今年4月に松川南信州まつかわ地域づくり観光センターという一般社団法人を立ち上げ、観光協会や果樹組合等と協力してDMOを目指しております。まだまだ未熟で、課題も多いわけではありますが、育てていきたいなというふうに思っております。

地域の施設としては、清流苑という直営の温泉がございまして、26年目になります。唯一の自慢が、26年間、1回も一般会計から積み立てたことがなく、独立会計の中でやってこられたということです。地域の皆さんに愛されるとともに、リピーターがそれ

だけ多いのかなという気がしています。その温泉を中心に、スポーツ施設、森林セラピー基地の認定をいただいておりますよりの森、森を生かした冒険ができるフォレストアドベンチャーという施設があります。おかげさまでフォレストアドベンチャーの収支も若干余裕ができています。そして今年、ツリドームという、木につらされた宿泊施設を3基設けました。ちょっと豪華なキャンプができる、いわゆるグランピングです。このように、森、森林を活かした観光振興をやっています。その他に、県の施設でありました青年の家を譲り受けています。今は休んでいますが、どのように活用し、どのように改装をするか、今、研究をしている段階でございます。

また、果物の里ですので、ジャムやジュースがありますが、今一番燃えているのは、リンゴのシードルです。最初、8軒の農家さんが、それぞれ独自のブランドのシードルをつくっています。リンゴの種類も全部ばらばらです。先日、飯田線でも天竜峡と伊那を往復するシードル列車を企画し、アピールをしております。また、農家の皆さんが自主的に醸造所をつくりたいということで、間もなくシードルの醸造所ができるという段階まで来ております。

一般社団法人を設けるときに、住民の皆さんの声で一番多かったのが、町を観光地にしていくのか、町に全国的に名の知れた観光地があるのか、それだけのキャパシティがあるのか、という言葉でございました。しかし、観光は、それを通じた地域づくりだと私は思っています。これからの観光地域づくりのために、自然、体験、学習、学びといった言葉をキーワードにしながら進めてまいりたいと思っております。

■コーディネーター

ありがとうございました。松川町というと、JAの直売所がモモ、梨、リンゴで、「も

なりん」という名前だったと思いますが、そのぐらい果樹で有名なところで、果樹、温泉を活かして、観光を通じた地域づくりを目指すという、重要なご発言でした。

では、阿智村の村長の熊谷秀樹様、続けてお願いいたします。

■阿智村長 熊谷秀樹 氏

映像に出ました阿智村の清内路というところの花火、あれも実は伝統芸能で300年続く花火でございまして、ああいった伝統芸能の体験ということも含めて、我々やっております。

阿智村は人口が6,500人という小さな村ですが、昼神温泉があり、観光客が年間130万人来ております。松川町と同じように、やはり観光を基軸にまちづくりをしていきたいと考えております。

昼神温泉は、日本一の星空という環境省の認定がとれたことから、知名度を集めました。どの市町村も、どうやって売り出していくか、ということが一番のテーマだと思いますが、私どもは、自分たちが住んでいて当たり前だと思っていたものが、たまたま JTB さんからアドバイスをいただいたことから、星空で売っていこうということで、5、6年ぐらい前からプロモーションを展開してきました。例えば望遠鏡メーカーのビクセンさん、自動車メーカーのスバルさん、星のマークのサッポロビールさん、キキララというキャラクターがいるサンリオさんなど、星に関連する全国規模の企業の皆様と提携をしながら、互いに経済効果があるように PR をしてきたことが大きな要因です。また、企業の皆様の保養や研修ということで来ていただいたことも、ポイントだと思います。

例えば我々が沖縄や北海道へ旅行に行ったときに、1泊2日で帰ってくるのはもったいないわけです。この三遠南信地域も、北海道や沖縄から来た皆さんが、2泊3日かけ

て地域を回って帰るような地域振興が大事だと思いますので、そういったプロモーションを本気で取り組んでいかないといけないと思います。行政ではやはり限度があるかと思いますが、経済界の皆さん、観光業者の皆さん、民間の皆さんのお力をかりて、日本のここにしかないものを、全国にプロモーションしていくことができればなと思います。

リニア中央新幹線もあと9年後になりますので、あと5年ぐらいが勝負だと思います。ぜひ、長野県でリンゴがとれ、車で1時間半ぐらい走ればミカンもとれるというような体験ルートができるという強みもしっかりプロモーションしていただければ嬉しいです。

阿智村に来られるほとんどの方が言われることが、星もいいけれど川や空を見たい、ということです。2年前に天皇皇后両陛下がお見えになって川を見たいと言っていただきました。この三遠南信地域の、2,000メートル級の山、川、魚など、豊富な資源が強みだと思いますので、ぜひ、そのプロモーションをお願いしたいと思います。

■コーディネーター

ありがとうございます。本学の南信州研修には事前学習授業があり、留学生以外に日本人学生も参加していますが、最初に聞いてみると、人口10万人の飯田市よりも、人口6,500人の阿智村のほうが有名です。テレビでも日本一の星空として報道されていますので、行ったことがあるとか、今後行きたいという若い学生がかなりいます。また、自分のところだけではなくて横につないでいこうという貴重なお話もいただきました。

続きまして、豊橋商工会議所会頭の神野吾郎様、よろしく申し上げます。

■豊橋商工会議所 会頭 神野吾郎

風土を考える二つのポイントと、三つのテーマの話をしたと思います。

ポイントの一つ目は、やはりその地域の本物を大事にするべきです。あれもこれもというコンセプトがぼやけてしまいますので、その地域が持っている本物の資源を大事にするということです。

二つ目は、広域で取り組む必要があるということです。愛知大学の藤田佳久先生が、昔から、集落の星座、ということを行っています。集落の一つ一つは小さな星だけでも、つなげると星座になり、そこに物語をつけたことによってはじめて魅力ができる、ということです。一つ一つの魅力はもちろんです、やはり周辺地域を含めた総合的な魅力が重要だと思います。

では、三遠南信地域は何をテーマに考えたらいいかということですが、一つはやはり祭りかなと思います。祭りは南信州、遠州、東三河で、いろいろな意味で共通していますね。花祭りなどの鬼、花火、凧など、歴史や民芸にもつながると思いますが、大きなテーマではないかと思います。この地域の祭りを1年間つなげて、日本中の人、世界中の人たちを呼び込めると思います。

二つ目のテーマは食ではないでしょうか。この地域には誇れる食文化がいっぱいあります。世界を見ると、スペインのサンセバスチャンは、食をテーマに世界中の人を集めています。コンベンションをするにもサンセバスチャンは人気だそうで、おいしいものが出るから参加率が高くなる、ということらしいですが、スペインのサンセバスチャン、イタリアのボローニャ、フランスのボルドーなど、地域の名前ですが食のイメージが出来てしまうというところがあります。そういうような、食でイメージできる、ということがテーマの一つになるのではないかと思います。そのためには、生産者、料理人の人材育成、フードプロデュー

サー、ジャーナリスト、教育機関、食品メーカー、企業とのタイアップなど課題は多いですが、野菜、果物、畜産、水産物と全部そろっている地域はなかなか無いので、食をテーマにするのもよいのではないかと思います。

それから最後に、それらをつなぐための三遠南信地域のポイントは、飯田線かなと思います。JRの幹部の人と話すと、通勤、通学の足としてずっと確保するから大丈夫と言われますが、観光や文化をつなぐという面でも、JR東海に深みのある提案をして、飯田線をシンボリックなつなぐ線、というふうにできればと思います。

■コーディネーター

ありがとうございます。本物を大切にするとか、星座のように点をつなげていくというお話は大変貴重だと思います。

飯田線はいろいろな方からお話が出ておりますけれども、実は我々の研修も、東京から行く場合はバスのほうが安いのですが、行きだけは豊橋から飯田線に乗っています。飯田線をつくる時にいろいろな方の苦労があったわけで、「合唱劇カネット」のDVDを事前に見て、アイヌの人々をはじめ先人の苦労をしのぶという意味でも飯田線を使っています。

続きまして、袋井商工会議所会頭の水谷欣志様、どうぞよろしくお願ひいたします。

■袋井商工会議所 会頭 水谷欣志 氏

袋井商工会議所は、以前から花火を三遠南信地域の共通の地域資源ということで活用し、経済の活性化と伝統文化の承継で相乗効果を出していきましようという提案をしてみりました。

豊橋商工会議所の神野会頭がおっしゃられたように、花火は、長野県、静岡県、愛知県で日本全国の3割以上の生産があり、3県とも打ち上げの数が上位10県に入ってい

ることから見ても、この地域では花火が根づいています。古くから、手筒花火を初め地元で開催されている花火大会がごございますし、また最近では音楽と連携した最新式の花火大会なども多数企画されており、若い方からお年寄りまで、皆さんが楽しめるこの花火文化を、これまでの歴史に加えてさらに継続、継承していくために、広域連携をしまして一層盛り上げていくことが必要ではないかと思えます。2020年の東京オリンピックは、7月24日から8月9日までの、まさに花火のシーズンのピークに開催されます。パラリンピックもその後にあります。インバウンドのお客様を含めてぜひ大勢の方に来ていただくために、今日はここでこういう花火大会がある、明日はどこで花火大会がある、ということをつきやすく整理し、1つの花火大会だけではなくて2つ、3つ回ることができるようにルート設定し、英語、中国語等も備えて、検索もできる、そんなコンテンツがあるといいかなと思えます。

先ほどお話のありました阿智村の花火など、日本中探してもない伝統的な花火大会は、非常に貴重なものですので、この地域で花火がどういうふうに生まれて根づいていったのか、という歴史的なことも含めて、来ていただいた方に知っていただくということも重要なことと思えます。

昨年2月に第1回三遠南信花火サミットを袋井で開催させていただきました。これからもぜひ継続開催してもらいたいと思えます。できたら、第2回は、手筒花火発祥の地、豊橋で開催していただければありがたいと思えます。

■コーディネーター

ありがとうございました。私もこの仕事をするようになってから、三遠南信地区のイベント情報メールを登録していますが、春は圧倒的に桜の情報が、夏から秋にかけ

ては花火やお祭りの案内が非常にたくさん届きます。なかなか行けないですけども、情報だけは拝見しております。

それでは、前半の最後になりますが、住民団体代表ということで、愛知大学総合郷土研究所の平川雄一様、お願いいたします。

■愛知大学総合郷土研究所

研究員 平川雄一 氏

本日、午前中に私が所属している三遠南信住民ネットワーク協議会では、住民セッションを行いました。今回は地域おこし協力隊をテーマに、OB、OG、現役の方3名から活動報告をしていただき、とてもよい内容でした。現在策定中の新連携ビジョンの参考になったのではないかと思います。

さて、観光といってもいろいろな見方がありますが、観光客、来場者への市場調査がとても重要になると思えます。やはり三遠南信地域全域の観光施設来訪者の動向や観光行動、ニーズなどをきちんと調査・分析し、把握することが必要だと思われま。そしてそれを施策等に活かしていくと思われま。そのためには三遠南信の連携を強められるでしょうし、今後の組織としての動きを期待したいと思えます。

■コーディネーター

ありがとうございました。問題提起ということで、観光客の人数や動向を把握して、政策にそれを活かす必要がある、ということでした。

ここまで、重点プロジェクト4について6名の方からお話をいただきましたが、ここまでで前田様、何かコメントをいただけないでしょうか。

■アドバイザー

ありがとうございました。星空、花火、お祭り、食、いろいろなキーワードが出てきました。基本的に観光も一般の企業の運

営と全く同じ考え方で、事業展開を立案し、実行するという、マーケティングをするということです。

基本的に、通常の企業はマーケティング活動として、自分たちの弱みを外部環境の機会に乗かって克服していこうとか、自分たちの強みを外部環境の機会と掛け算し積極的に攻めていこうとか、そういった戦略を立案し実行する基本的なスキームがあります。観光も同じことで、我々の、この地域の強みと弱みを自分たちで理解して、それに対して外部環境の機会や脅威に対してどう立ち向かっていくのか、ということを考える必要があります。先ほど、神野会頭がおっしゃっていた、地域の本物というキーワードに、私は非常に心を打たれました。事業戦略と同じように、観光で立案される戦略の中に、各地域のキラコンテツとは何か、ということ自分たちで導き出さないといけないと思っています。いろいろなコンテツがある、ではお客様は来てくれませんか。例えば、阿智村の例ですとやはり星空がキラコンテツとなったと思います。

企業は選択と集中です。行政の予算も同じことだと思いますので、観光も自分たちの強みが何なのか、弱みをどうやって克服しようか、ということから全てが始まります。それをつかさどる団体が観光においてはDMOというふうに使われていますので、ぜひ、そういった活用の仕方を皆様方も模索されてはいかかなというふうに思いました。

■コーディネーター

ありがとうございました。

それでは、重点プロジェクト5「中山間地域が輝くプロジェクト」に移りたいと思います。全国的に中山間地域をどう活性化するかということが課題になっていますけれども、この地域はそういう地域が多く含ま

れるということで、活性化のためにこれからどういう取組を進めていけばいいのか、それぞれお考えを發表いただきたいと思います。

では最初に、浜松市長の鈴木康友様、お願いいたします。

■浜松市長 鈴木康友

地域おこし協力隊の取組についてお話しします。協力隊の皆様には、中山間地域の活性化について大変頑張ってもらっており、浜松では山里いきいき応援隊、通称、山いき隊、と呼んでいます。地域外から来た若者が、例えば耕作放棄地やボロボロになったキャンプ場を再生するなど、いろいろな知恵で地域を元気にする取組をしていただいております。大変我々も期待をしております。また、3年間任期を務めた10名の方がこの地域に全員定住してくれており、移住の支援にもなっています。

三遠南信地域全体では、平成30年3月時点で181名の隊員が活動していると伺っており、おそらくそれぞれの地域で活動をしていると思いますが、1人でその地域に入っていくと、孤立してしまう場合もあります。それには、例えば定期的な情報交換をしたり、お互いにフォローし合ったり、という横展開ができるといいのではないかと思います。三遠南信サミットなんかで彼らの活動紹介をすれば、お互いの活動内容も分かりますし、この交流の中で連携ができるのではないかと、ということで、ご提案をしたいと思います。

■コーディネーター

ありがとうございました。ちなみに、浜松市の地域おこし協力隊には法政大学の卒業生である小川祐希さんもおりまして、この間、私の授業に招いて、自分が取り組んでいる活動の話をしてもらいました。学生たちも大変興味を持って聞いてくれました。

では、続きまして天龍村長の永嶺誠一様、お願いいたします。

■天龍村長 永嶺誠一 氏

私からは、重点プロジェクト5「中山間地域の輝くプロジェクト」の、県境地域での観光振興や交流連携事業の推進について、発言をさせていただきます。

私どもの天龍村を含めました長野県の南部地域と愛知県の奥三河と呼ばれている地域は、小規模の町村が多く、行政運営をしていく上で大変な場面が多いです。町村によって、抱える課題はそれぞれ違いますが、共通している地域課題については、連携をして対策を講じているというのが現状でございます。

例えば、下伊那の南部には5つの町村があり、当然、南信州広域連合にも加盟しておりますが、その5町村で総合事務組合を組織して、火葬場、診療所、公共交通バス、訪問看護ステーションの運営など、なかなか単独の町村では難しいものを一緒になってやっています。

また、愛知県と長野県の県境をまたぐ5町村、愛知県は豊根村、長野県は阿南町、根羽村、売木村、天龍村、で県境地域の開発、振興、県境を越えた新たな山村づくりを推進していこうという目的で、昭和52年に、愛知・長野県境域開発協議会を発足し、40年たった現在もいろいろな活動をしています。県境域開発協議会では、議員同士の研修会や、住民同士の交流、道路交通や産業振興にかかることなど、3つに部会ごとに、それぞれが課題解決に取り組んでいます。

また、愛知大学の戸田先生にご協力いただきまして、「県境をまたぐ共生圏における新たな交流の創生」という冊子を作成し、こうした連携が大事だということで、昨年2月に飯田市で行われました第24回三遠南信サミット全体会でもお話しさせていただきました。県境地域の置かれている厳し

い現状を踏まえ、教育、農林業、観光、スポーツ、移住・定住促進など、独自の地域づくりを実践してきたことが記載してあります。例えば観光では、5町村で、おいでんスタンプラリー、というものを行っております。愛知県の一番高い山である茶臼山を中心として、各町村で二つずつ観光施設などのポイントを設け、スタンプを押しながら全部で11か所をめぐる地域の特産品のプレゼントがもらえるというもので、年々参加者が増えています。

この5町村は、三遠南信地域の中心部分に位置していることから、歴史的にも東西、また南北の交通の交差する地域でございます。リニア中央新幹線開業後も、その特性を失うことなく、地域の将来に結びつけることが必要です。

三遠南信地域連携の中では、これまでハード面では三遠南信自動車道を始め（はじめ）とする道路整備、ソフト面ではドクターヘリ、防災体制、広域的な文化観光の情報発信や誘客に結びついており、山間部と都市部の連携の基礎、基盤が整備されたと思っております。その反面、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通後、これらの効果が都市部だけでなく山間部に及ぶように、この地域が通過地域にならないような、工夫、対策が今から必要ではないかと思っております。これらを踏まえ、私ども愛知・長野県境域開発協議会としては、地域の持続性を確保するための県境地域が一体となった計画の確立と、その実現に向けた活動を進める決意でございます。今後さらに連携を図っていくことが重要だと思っております。

このことは、我々の愛知・長野県境域開発協議会に限らず、この三遠南信地域においても、プラットフォーム等を活用した地域連携が不可欠でありますし、それには三遠南信地域の知名度がアップしなければ、この地域が薄れてしまいますので、そのた

めにも連携が必要ではないかと思っております。

■コーディネーター

ありがとうございました。SENAがなく、あるいは三遠南信という決まりきった言葉もまだ定着していなかった時代から、三遠南信の源流として、愛知・長野県境域開発協議会が長年活動されてきたということで、非常に大事な取り組みだと考えられます。

それでは、新城市商工会会長、権田知宏様、お願いいたします。

■新城市商工会 会長 権田知宏 氏

中山間地域が輝くプロジェクトということですが、実際はなかなか難しく、四苦八苦しているのが現状です。新城市は設楽町、東栄町、豊根村を含めた4市町村で奥三河地域と言われていますが、約20数年前から一緒になっているいろいろなことに取り組んでいます。

平成26年から地域おこし協力隊を各地域3人ぐらいずつ委嘱しており、任期の3年が経つと地域から出ていってしまうのが実情ですが、中には残っていただける方を見えまして、日本でも特殊な技術を持ったり、ここでしかできないような産業を持つ会社もあつたりしますので、その方々と協力しながら、いろいろなことに取り組んでいます。農家レストラン、スポーツツーリズムのパークトレイルラン、naori というビューティーツーリズムや、JAの外郭団体と協力しながら統一したデザインをつくって売り出すなど、我々も力を入れています。これを食べたら、ここに来たら健康になる、女性は美しくなるというテーマを掲げてやっておりますので、ぜひ、皆さんも一度お試しいただきたいと思っております。

商工会としても連携をしており、おくみかわ創業塾や、本日の「技」分科会でも発表させていただいている新城軽トラ市など

を開催しています。軽トラ市は昨日、103回目の開催をさせていただきました。三遠南信地域のそれぞれの商品、特産品を毎月一度売り出しておりますので、ここから企業同士の連携や特産品の交換などができるようになれば、中山間地域を活性化する一助になるのではないかと考えております。

■コーディネーター

ありがとうございました。私も、このコーディネーターを務めるのに、103回を数える新城軽トラ市「のんほいロット」を一度も見えていないのはいけないと思い、昨日お邪魔していろいろ買わせていただきました。

では、天竜商工会会長の大村邦男様、お願いします。

■天竜商工会 会長 大村邦男 氏

私どもは浜松市の天竜区の商工会でございます。面積は浜松市の62%ぐらいを占めていますが、人口は2万人を切っています。年間数億円の商売をなさっていた地元のスーパーが一昨日閉店し、すぐ近くに大型店がいくつもあるものですから、会員数はどんどん減る一方で、苦慮しております。

明るいニュースとしては、昨年二侯城跡と鳥羽山城跡の2つ、国の文化財の指定をいただきました。二侯城は、徳川家康公の長男の信康公が切腹したところでございますが、これから観光にも注力をしていかなければならないと思っております。他にも、本田宗一郎の生家や、お寿司屋のすきやばし次郎さんが幼少期を過ごした建物が現存しており、これらも活かすことができたらと思っておりますが、地主さんやご本人さんなどの調整など課題も多くございますので、今後取り組んでいきたいと思っております。また、かつては日本の三大祭りの1つと言われた花火、外国の品評会の金賞や農林水産大臣賞をいただいたお茶屋さんが数軒ござ

いますので、それらも発信をしたいと思
います。

最近では、天竜区でも長野県の松本ナンバ
ーの車を多く見かけますし、新東名高速道
路の浜松浜北インターチェンジの高速道路
の案内表示に、天竜区も入れてもらいた
いなど思っております。

■コーディネーター

ありがとうございました。天竜区は中山
間地域ですけれども、海のもの、例えば佐
久間でアワビの養殖をやったり、春野でキ
ャビアの養殖を始めたりということを知
っております。

それでは、泰阜村のけもかわ project の
井野春香様に、ご発言をお願いしたいと思
います。

■けもかわ project(元泰阜村地域おこし協力隊)

代表 井野春香 氏

私からは、地域おこし協力隊のネットワ
ーク化支援についてお話しします。

私はもともと、平成25年から平成28年ま
で、泰阜村の地域おこし協力隊だったの
ですが、その時も地域おこし協力隊同士
のネットワークやつながりは、交流会な
どの形でいくつかやられてきていました。
ただ、私が当時感じたのは、自分には確
固たる目的があったので、つながりさえ
できれば、密に連絡を取るとか、情報交
換を積極的にするとかいうことについて
あまり必要性は感じませんでした。とい
うよりも、事業を立ち上げる時に、アド
バイスをくれるような方たちとのつなが
りがほしかったな、というのを感じて
いました。

最近、いろいろなところでネットワ
ークをつくるという話をよく耳にしま
す。南信州では、南信州発の長野地域
おこし協力隊 OB・OG ネットワーク
というものを、伊那市の地域おこし協
力隊の OG の方を中心に有志6人で
立ち上げました。OB・OG がそれぞ

れいろいろな専門分野、私であれば猟
であるとか、皮革活用であるとか、こ
れから協力隊として活動していく人
たちへのアドバイスができます。それ
以外にも、カフェを営んでいる OG
の子もいれば、ヨガをやっている
方、シェアハウス、婚活事業、カ
ウンセラー、商品開発、いろいろな
ことをやっている人たちそれぞれの
課題や疑問、あるいは自治体側の
課題もふくめて、そのネットワーク
で解決できたらいいなと思ってい
ます。

現在はコアメンバー6名ですが、さら
に OB・OG を中心に講師登録とし
て参加してくれる方たちを増やして
いって、それぞれに合ったイベント
や継続的な契約などを行っていき
る予定でいますので、まずは南信
州からなんですけど、三遠南信地
域にも広げていきたいなと思っ
ております。

■コーディネーター

ありがとうございました。井野さんは、
泰阜村の元地域おこし協力隊であり、
現在はけもかわ project というこ
とで、鹿の皮や肉などをさばいて事
業化していらっしゃる方ですが、地
域おこし協力隊の体験者の情報ネ
ットワークということで、大変興
味深いと思います。

「住・人」分科会でご報告をいた
だく木村彩香さんも、飯島町の元
地域おこし協力隊員ですが、南信
州には卒業後も地域に残って活
動を続けている方が多いですね。

■けもかわ project(元泰阜村地域おこし協力隊)

代表 井野春香 氏

そうですね。ちなみに、その木村
彩香さんが発足人です。

■コーディネーター

ありがとうございました。それでは、
後半のテーマである重点プロジェ
クト5について5名の方からご報
告をいただきました。

前田様、ここでまたコメントをいただけないでしょうか。

■アドバイザー

ありがとうございました。地域おこし協力隊に関して、私のほうから事例を挙げさせていただきたいと思います。

私の大井川鉄道時代に、SLの車窓から見える昔ながらの原風景を再度取り戻そうということで整備を行いました。本線は約30kmありますが、自分たちで全ての整備はとてできませんので、地域の方を巻き込むために、島田市2名と川根町1名の地域おこし協力隊の方に事務局をお願いしました。彼らが地域のキーマンの方々にお伺いをし、何月何日、こういうものを植えたい、もしくは草刈りをしたい、一緒にやりませんか、と働きかけをやっていただいていた。当初はお願いするに当たって、やってくれるかどうかということをお心配していましたが、むしろ逆で、彼らも頼りにされることを非常に喜んでくれて、彼らが大井川鉄道と地域をマッチングしてくれたという場面が多く、今後も、地域おこし協力隊の活用の仕方というのは多岐にわたるかなと思っています。

また、浜松市の地域おこし協力隊の小川祐希さんは、私たちが立ち上げた、浜名ジェンヌという地域の女性のSNSチームに入ってもらっています。現在、11名、地域のインフルエンサーの方を私たちが委嘱していますが、彼女にも、ローカルなエリアの情報発信、リアルなシュールな情報を発信してくれるように、今、実際に動いているところです。そういった意味でも、今後は今までとは違う概念で、協力隊の方々の活躍の後押しをしてみたいかなと思います。

最後に、今日の分科会では、移動手段というキーワードが必ず入ってくると思いますが、私は、JR飯田線はほかにはない強み

だと思っています。鉄道が走っているエリアの皆さんは、昔から走っているので当たり前だと思いますが、走っていないエリアからしてみると、うらやましくてしょうがないんです。今の時代鉄道を敷いてほしくても、JRも含めて投資する企業はまずいません。次に出てくる代替手段はバスですが、ローカルのバス路線は基本的に赤字になり得ないものなので、どんどん便数が減っていきます。だから、既に目の前を鉄道が走っていることを活用しない手はないと思います。私が先ほど申し上げたキラコンテツ、この地域の強みの中に、必ず飯田線が入ってくると思いますし、今後できる三遠南信地域の道路も入ってくるべきだと思いますので、公共交通のあり方についてぜひ議論を進めていかないといけないと思っています。

例えば、昨日、しまなみ海道のサイクリングイベントに行ってきました。私も自転車で走りましたが、昨日は推定4,000人から5,000人ぐらいの方が全国から集まってきました。帰りに電車に乗ると、輪行といって、自転車を折りたたんだり、分解して背負ったりして電車に乗って帰られる方が非常に多く見受けられました。車で来る方ももちろん多いですが、やはり鉄道を利用して、飲みながら帰るといった楽しみ方もあると思います。こういった鉄道の活用の仕方など、飯田線はまだまだ潜在価値があると思っていますし、皆さんが、地元の方が、まずは自分たちが飯田線に乗って楽しみ方を考えようという活動の仕方も、大切ではないかと思っています。

地域の強みを分析していく中で公共交通のあり方も、ぜひ、皆さんお考えいただきたいなと思いました。

■コーディネーター

ありがとうございました。やはり鉄道、路線バス、コミュニティバスの存在する意

義を考え、いろいろな使い方を工夫できるのではないかと思います。

さて、ここで本日の主な意見を簡単にまとめさせていただきます。

設楽町の新しい道の駅に民俗資料館を建設するとか、松川町のように新たな DMO の設立を目指すなどから始まって、各自治体の新しい取組のお話、またこの地域にしかないものを大事にしたり、横の連携を図っていくというご意見をいただきました。それから飯田線をひとつの資源として大切にしたいというお話も、複数の方からあったと思います。

この後の報告会での報告は、以上をもとに、私と事務局でまとめさせていただきましたと思いますが、よろしいでしょうか。中身の濃い意見交換ができて、大変うれしく思っております。以上をもちまして、この「風土」分科会を閉会といたします。